

## 音響芸術科

## ステージシステム1

対象	1年次	開講期	前期	区分	必	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	恒枝賢治			実務 経験	有	職種	レコーディングエンジニア・ミュージシャン・ギタリスト				

## 授業概要

舞台機構技能の受験にかかわらず、舞台機構技能検定3級相当の内容を中心に学習する。音響用語との解説を中心に演劇用語、舞台設備、コンサートなどの音響技術全般、各種楽器の仕組みと音色の把握ができる様になることが主な目的となる。近年の音響エンジニアはレコーディング以外にもアーティストの担当として、アドバイザーとしての仕事を務める事もあり、幅広い知識を獲得しておくことも重要である。

## 到達目標

音響のエンジニアとして様々なイベントへの関わりを持てる知識を得ることが目標である。近年ではCDの売り上げ低下に反してライブ・イベントの動員数は増加傾向にあり、音のプロフェッショナルとしてイベントに積極的に関わっていく事も重要である。例えレコーディングエンジニアであっても、イベント時のアーティストの音やパフォーマンスに対して知識を得ることにより、より深い音作りへの貢献ができるようになる。

## 授業方法

講義形式にて行う。教科書資料の使用、もしくは適時プリントを配布。自分で完成させるワークタイプの物も配布。前回までの各項目を理解した上で次の次項目へ繋がるため、復習も随時行いながら進行する。復習や仮説においては各自の発言の機会もあるので、積極的な参加が望ましい。映像、音響資料も多用する。

## 成績評価方法

期末試験と課題内容、によって評価する。

## 履修上の注意

音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

## 教科書教材

音響映像設備マニュアル（2019年改訂版）

回数	授業計画
第1回	コンサートとライブ・スタッフ
第2回	舞台機構調整技能士とは？
第3回	舞台の種類、舞台設備、用語1

第 4 回	舞台の種類、舞台設備、用語2
第 5 回	舞台関連基礎 I 舞台設備
第 6 回	舞台関連基礎 II バトン、吊り物
第 7 回	舞台関連基礎 III 照明
第 8 回	音響家の基礎知識 I 音について
第 9 回	音響家の基礎知識 II 楽器1
第 10 回	音響家の基礎知識 III 楽器2
第 11 回	舞台機構模擬試験
第 12 回	シンプルなPAオペレート
第 13 回	舞台・音響の為の電気基礎
第 14 回	安全管理と法令（消防法など）
第 15 回	前期まとめ。上記項目の相互の関連も確認。